

11月号

令和元年10月31日 発行



たかさんだより

杉並区立高井戸第三小学校

TEL 03(3302)0181

FAX 03(3302)6213

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido3shou/>

教育目標「すすんで考えやりぬく子 心ゆたかでたくましい子 なかよく助け合う子」

コンタクト

校長 馬場 章弘

ラグビーワールドカップ、日本は初のベスト8まで進むことができました。試合のたびに、まるで相撲中継のように全身に力が入ってしまった方もいらしたのではないのでしょうか。新聞では日本代表チームの選手たちが考える、勝ち進むためのいろいろなキーワードが紹介されました。その中の一つに「コンタクト」があります。「つながる」という意味です。「自分たちが目標とするもののために、それぞれの思いや情報・手段を共有し力を合わせる」と解釈してもよいかもしれません。

10月7日(月)の朝日新聞の朝刊に日本v s サモア戦のエピソードが掲載されていました。4トライ目をあげボーナスポイントをつけた松島選手とスクラムハーフの田中選手とのスクラムを組む直前のやり取りです。「チャンスがあったら回してくれ」という短い一言ですが、それが日本のプール3連勝に大きく貢献したのです。

人が何か考えたとき、はじめは脳の中にとどまっています。そのまま自分の頭の中、心の中にとどめておくだけで、それ以上のことは起きません。その一方で、言葉にして、表情にして外に表現する、一人に、二人に、たくさんの人たちに伝えたとします。そのことにより誰かが考えたこと、思ったこと、感じたことを共有し、また新たな何かが生まれてくることもあります。それは、AIがビックデータを学習してそこから平均的答えを回答していくのとは違う、とても人間らしい活動です。

来年度から実施される学習指導要領がねらいとするものの一つに、「主体的・対話的で深い学び」があります。子供たちが一人一人感じたことや考えたこと、気付いたことを交流する中で、新たな気付きや学びが生まれてくることをねらっています。そのために、身に付けておきたいのが人とコミュニケーションをする意欲や技能です。そして、単に情報や思いをやり取りするだけでなく、それぞれの目標を、そしてそれを実現するための方法を共有する力です。学校やいろいろな場面でお互いに「コンタクト」することにより、子供たちが自分たちの明日を切り拓く力をつけていってこれればと思います。

小中一貫教育～向陽中体験プログラム～

6年

6年生は、小学校と中学校の接続をスムーズにするため、向陽中・永福小と交流する小中一貫教育に取り組んでいます。1学期には、向陽中の生徒会の方々と一緒に「明日も来たくなる学校」について話し合いました。その内容を生かし、向陽中・永福小の代表と共に「すぎなみ小中学生未来サミット」の発表準備を行いました。9月には、6年生全員で「向陽中体験プログラム」に行きました。向陽中の全クラスの授業参観をした後、英語・数学・技術に分かれて中学校の授業を体験してきました。中学生のきびきびした行動や、たくましさや圧倒されつつも、中学校生活とはどういうものかを体験し、未来の自分の姿に重ね合わせてきたようです。12月には、「向陽中生母校訪問」があり、本校卒業生から中学校生活についての生の声を聞かせていただく予定です。